

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	2020年2月14日
【四半期会計期間】	第57期第3四半期（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）
【会社名】	株式会社高速
【英訳名】	KOHSOKU CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 赫 裕規
【本店の所在の場所】	仙台市宮城野区扇町七丁目4番20号
【電話番号】	022(259)1611(代表)
【事務連絡者氏名】	社長室長 及川 敏正
【最寄りの連絡場所】	仙台市宮城野区扇町七丁目4番20号
【電話番号】	022(259)1611(代表)
【事務連絡者氏名】	社長室長 及川 敏正
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第3四半期連結 累計期間	第57期 第3四半期連結 累計期間	第56期
会計期間	自2018年4月1日 至2018年12月31日	自2019年4月1日 至2019年12月31日	自2018年4月1日 至2019年3月31日
売上高 (千円)	66,511,451	67,982,427	86,519,630
経常利益 (千円)	2,757,214	2,647,268	3,304,208
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	1,925,081	1,775,468	2,344,606
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,976,830	1,729,384	2,293,022
純資産額 (千円)	26,747,828	28,223,563	27,064,020
総資産額 (千円)	49,871,616	51,620,817	48,031,047
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	99.68	91.93	121.40
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	53.63	54.67	56.35

回次	第56期 第3四半期連結 会計期間	第57期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年10月1日 至2018年12月31日	自2019年10月1日 至2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	38.29	35.29

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含んでおりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、基本的には堅調に推移したものの、海外情勢の不安定化を受けて、今後の先行きについては相変わらず不透明な状況にあります。

当社グループの主要顧客である流通・食品加工業におきましては、消費税率引き上げ等の影響による個人消費の伸び悩み、業態を越えた競争の激化や人手不足に起因する人件費・物流費等のコストの上昇のほか、台風被害も相次ぎ、業界を取り巻く環境は厳しいものとなっております。

このような中、当社グループにおきましては、「包装を通して、すべてのステークホルダーに『高速ファン』を増やし、社会にとって有用な『グッドカンパニー』を目指す」という長期経営ビジョンのもと、「食の流通を支える」、「食の安全安心に貢献する」さらに「買い物の楽しさや食品のおいしさを演出する」という当社の社会的役割を果たしながら、お客様への商品・企画の提案や情報提供を行い、業容の拡大を目指してまいりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

#### 財政状態

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ35億89百万円増加し、516億20百万円となりました。これは主に、現金及び預金16億54百万円減少、受取手形及び売掛金26億44百万円増加、商品及び製品15億81百万円増加によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ24億30百万円増加し、233億97百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金27億10百万円増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ11億59百万円増加し、282億23百万円となりました。これは主に、利益剰余金12億5百万円増加によるものであります。

#### 経営成績

当第3四半期連結累計期間での業績は売上高679億82百万円(前年同期比2.2%増)、営業利益24億91百万円(同4.7%減)、経常利益26億47百万円(同4.0%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益17億75百万円(同7.8%減)となりました。

当社グループは「包装資材等製造販売事業」の単一セグメントであるためセグメント情報は記載しておりません。また、実質的に単一事業のため、事業部門別等の記載も省略しております。

なお、当第3四半期連結会計期間(2019年10月～12月)における連結損益の主要項目は、下記のとおりとなっております。

区分	前第3四半期連結会計期間 (自 2018年10月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2019年10月 1日 至 2019年12月31日)	対前年比率 (%)
	金額(千円)	金額(千円)	
売上高	23,767,637	23,787,444	100.1
売上原価	19,538,834	19,582,006	100.2
売上総利益	4,228,802	4,205,437	99.4
販売費及び一般管理費	3,164,627	3,242,075	102.4
営業利益	1,064,175	963,362	90.5
営業外収益	60,603	66,375	109.5
営業外費用	10,769	5,145	47.8
経常利益	1,114,009	1,024,591	92.0
特別利益	-	108,266	-
特別損失	-	88,022	-
税金等調整前四半期純利益	1,114,009	1,044,835	93.8
法人税等	374,455	363,161	97.0
四半期純利益	739,554	681,674	92.2
親会社株主に帰属する四半期純利益	739,554	681,674	92.2

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,973,920	20,973,920	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	20,973,920	20,973,920		

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日	-	20,973,920	-	1,690,450	-	1,858,290

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,661,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,304,500	193,045	-
単元未満株式	普通株式 8,220	-	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	20,973,920	-	-
総株主の議決権	-	193,045	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2,300株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数23個が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)高速	仙台市宮城野区 扇町七丁目4番20号	1,661,200	-	1,661,200	7.92
計	-	1,661,200	-	1,661,200	7.92

2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,988,366	9,334,206
受取手形及び売掛金	14,094,309	16,738,365
商品及び製品	3,914,908	5,496,554
仕掛品	80,549	75,613
原材料及び貯蔵品	130,445	150,473
その他	149,041	417,973
貸倒引当金	28,736	27,314
流動資産合計	29,328,884	32,185,871
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,800,333	5,301,764
土地	9,564,040	9,645,837
その他(純額)	1,365,009	1,452,863
有形固定資産合計	15,729,382	16,400,465
無形固定資産		
その他	137,474	182,458
無形固定資産合計	137,474	182,458
投資その他の資産		
投資有価証券	1,889,328	1,913,057
長期貸付金	7,017	6,897
投資不動産(純額)	294,614	291,426
繰延税金資産	379,538	368,838
その他	288,205	287,238
貸倒引当金	23,399	15,435
投資その他の資産合計	2,835,305	2,852,021
固定資産合計	18,702,162	19,434,945
資産合計	48,031,047	51,620,817



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,853,505	19,563,829
未払法人税等	661,739	361,497
賞与引当金	507,780	244,164
その他	1,414,934	1,660,466
流動負債合計	19,437,959	21,829,958
固定負債		
長期未払金	28,870	28,870
リース債務	331,030	363,908
繰延税金負債	509,452	470,578
退職給付に係る負債	598,862	642,842
その他	60,851	61,095
固定負債合計	1,529,067	1,567,295
負債合計	20,967,026	23,397,253
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,690,450	1,690,450
資本剰余金	1,858,290	1,858,290
利益剰余金	24,474,530	25,680,274
自己株式	1,354,861	1,354,978
株主資本合計	26,668,408	27,874,035
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	402,102	354,994
退職給付に係る調整累計額	6,490	5,466
その他の包括利益累計額合計	395,611	349,527
純資産合計	27,064,020	28,223,563
負債純資産合計	48,031,047	51,620,817

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
売上高	66,511,451	67,982,427
売上原価	54,673,156	55,914,279
売上総利益	11,838,295	12,068,147
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	1,520,681	1,618,991
給料及び手当	3,746,177	3,870,915
賞与引当金繰入額	193,175	196,753
退職給付費用	76,259	103,583
その他	3,686,539	3,786,526
販売費及び一般管理費合計	9,222,832	9,576,770
営業利益	2,615,463	2,491,376
営業外収益		
受取利息	2,692	7,341
受取配当金	30,284	32,085
仕入割引	73,321	75,856
受取賃貸料	39,853	39,249
その他	25,862	23,821
営業外収益合計	172,012	178,354
営業外費用		
賃貸収入原価	12,533	11,855
その他	17,727	10,607
営業外費用合計	30,260	22,462
経常利益	2,757,214	2,647,268
特別利益		
投資有価証券売却益	163,660	105,680
受取保険金	-	2,586
特別利益合計	163,660	108,266
特別損失		
災害による損失	-	90,278
特別損失合計	-	90,278
税金等調整前四半期純利益	2,920,875	2,665,257
法人税等	995,794	889,788
四半期純利益	1,925,081	1,775,468
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,925,081	1,775,468

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,925,081	1,775,468
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	51,325	47,108
退職給付に係る調整額	423	1,023
その他の包括利益合計	51,749	46,084
四半期包括利益	1,976,830	1,729,384
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,976,830	1,729,384

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
受取手形	359,321千円	351,126千円
支払手形	1,879,454	1,567,699

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	522,085千円	536,799千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月18日 取締役会	普通株式	270,379	14.00	2018年3月31日	2018年6月22日	利益剰余金
2018年11月16日 取締役会	普通株式	280,034	14.50	2018年9月30日	2018年12月3日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月17日 取締役会	普通株式	280,034	14.50	2019年3月31日	2019年6月20日	利益剰余金
2019年11月15日 取締役会	普通株式	289,690	15.00	2019年9月30日	2019年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

当社グループは「包装資材等製造販売事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	99円68銭	91円93銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,925,081	1,775,468
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	1,925,081	1,775,468
普通株式の期中平均株式数(株)	19,312,756	19,312,699

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間終了後四半期報告書提出日までの間に、配当について行われた取締役会決議の内容

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2019年11月15日 取締役会決議	289,690	15.00

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月13日

株式会社高速

取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 今江 光彦 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 木村 大輔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社高速の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年10月1日から2019年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社高速及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。